ぺた語義

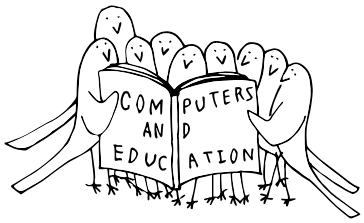
【第 38 回】

contents

［コラム］
論文誌「教育とコンピュータ」
…角田博保

［解説］
SNS といじめ問題に対する高校での教育事例
～予防・防止を目的としたロールプレイング授業の紹介～
…米田　貴

基専 Column



論文誌「教育とコンピュータ」

2014 年度から新しいトランザクション（論文誌「教育とコンピュータ」）が発行される．教育とコンピュータの両方に関連するテーマを扱うものである．

本会会員は情報（コンピュータ）に関係しているだけでなく，教育にも関係している方が多いのではなかろうか．つまり，コンピュータや情報に関する教育をするという情報教育から，教育のためにコンピュータを利活用しようという教育の情報化まで，広くかかわっておられると思う．情報教育の素晴らしい教え方を発案した場合や，素晴らしい教育支援システムを作った場合，一般に公開してこそ，社会の役に立つ．また，一般性のあるものとして認められ，評価もされる．じゃあ，論文を書こう！

ジャーナル論文は対応する分野が広く，それを 1 つの編集細則によって扱うので，小回りがきかない．そこで，既存の論文誌とは違う新しい価値を見出したトランザクションの出番である．さて，教育に関して，要素技術としての新規性を要求するのは厳しい場合がある．要素技術の応用や適用の仕方に新規性を認める必要性もある．教育を題材とした場合，要素技術よりは実践が重要になる場合も多い．

そこで，本トランザクションでは，研究論文のほかに実践論文を導入した．実践論文では，新規性・有用性の基準を見直し，読者にとって有益な価値のある実践と判断される場合は，積極的に評価する．実践論文では研究対象は要素ではなく全体である．観察されたデータは必ずしも客観的とは言えず，経過や結果を再現することは難しいが，研究全体を通して得られた知見が正確かつ理解できる形で記述されていることを評価する．このように，要素技術に対するものとは違った査読方針を導入している．

また，論文を書き慣れていない方々にも積極的に投稿していただきたいという狙いから，必要に応じて執筆に関する指導的な内容を含む査読を行う場合がある．そして，大幅な修正が必要であろうとも，読者にとって有益な価値を含むと判断される場合は，条件付採録とし，複数回の照会を可能としている．

さらに，論文とするにはまだ評価が弱いが，この実践は公表すべきものだという取り組みのために，ショートペーパーを導入している．まずはショートペーパーとして公表し，その後，論文として改良するという戦略もよいのではないか．

さあ，教育とコンピュータ関係の新たな発表の場が登場した！　ぜひ論文を書いて投稿してみませんか？　細かいことは学会の Web ページ☆1 をご覧ください．

☆1 http://www.ipsj.or.jp/trans/transaction.html

角田博保（電気通信大学大学院情報理工学研究科）

ロゴデザイン ● 中田 恵　　ページデザイン・イラスト ● 久野 未結

ぺた語義は pedagogy（教育学）を元にした造語です．常設の教育コーナーとして教育や人材育成に関する記事を広く掲載しています．ぺた語義に掲載された記事は，情報処理学会 Web ページの「教育・人材育成」からどなたでもご覧いただけます．